

だい きやまとし たぶんかきょうせいかいぎ だい かいがいぎ ろく ようやく
第4期大和市多文化共生会議 第7回会議録(要約)

にちじ ねん がつ にち ど
日時: 2016年10月8日(土)14:00~16:00

ばしょ やまとし やくしよぶんちようしゃ かいがいぎしつ
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅっせき いん いしま いとうもとみ いのみさと くするみこ しらとりせつろう しょうじ
出席: 委員(石間フロレリサ、伊藤素美、猪野美里、楠瑠美子、白鳥節郎、東海林
まりえ、田野井咲奈、ハゲイ パトリシア、府川貴恒) / 大和市国際・男女共同
さんかくか しのざき みずお こうえきざいだんほうじんやまとし こくさい かきょうかい さかい たなか こにし
参画課(篠崎、水尾) / 公益財団法人大和市国際化協会(酒井、田中、小西、
いしかわ いじょう めい
石川) 以上15名

けっせき いん せ や ま り けいしりやく
欠席: 委員(ウプレティ マトリカ、瀬谷麻里)(敬称略)

1 講話

ほうじん もり おや こ り じ ち ょう もり ほい くい えん うん
NPO法人さくらの森・親子サポートネット理事長で「さくらの森保育園」を運
えい い ち じ し
営する伊知地るみ氏から「こうなったらいいなをかたちにする」というテーマ
ちいき か だいかいけつ む と く
で地域の課題解決に向けた取り組みについてうかがった。

講話者略歴

こ う じ ゃ ん ち い き かつどう かか た と ば
○子どもが生まれてから、地域の活動に関わるようになった。例えば、PTA などの場で
「あれ、おかしいよね」といった話はしてきたが、何となく話をして終わっていた。そんな
なか 「こんなものがあればいいね」「ないのであれば、自分たちでつくってしまえばいい
じゃん」と考えるグループと出会い、そうした活動に関わりを持つようになった。

こうれいしゃ かい ご あんぜん べんとう かつどう
○グループではそれぞれ高齢者の介護や安全なお弁当をつくる活動をしていた。どうし
やまとし の まちづくりにつながってくる話なので、市議会などに自分たちの意見を反
えい かつどう
映しよう、という活動につながっていき、わたしがやまとし の しぎかい ぎいん になった。市議
とう じ だい いちばんわかて こそだ ちゅう ぎいん げん
になった当時は、30代のわたしが一番若手で子育て中の議員もいなかったの、現
ば こえ とど おも やまとし じょうれい ねんかん しぎ かつどう
場の声を届けるという思いもあり、大和市の条例をつくるなど8年間市議として活動をつ
つ
続けた。

何か変だなと思ったらミニフォーラム

なに へん おも
○何か変だなと思ったら「ミニフォーラム」を開催することになっている。「何か変だな、これ
こま おも
困ったな」と思ったときに、そのままにしておくのではなく、困ったことを整理することで、
かいけつ せいり なか やまとし
解決につなげていくことができる。整理していく中で、「大和市がやるべき」とか「これは
じぶん
自分たちでやってみよう」という道筋をつけていく。

たと ほい くい かんきょう かいぜん かんが かい
○例えば、保育環境の改善を 考 えるために「ワーキングマザーの会」というものをつくつ

た。子どもを保育園に預けられる時間は 19 時くらいまでだが、小学校に入ると学童保育を利用して子どもを預けられる時間が 17 時半くらいで終わってしまう。母親の仕事が終わる時間は変わらないので、子どもが小学生になると母親の仕事が続けられなくなってしまう、という相談があった。そこで児童保育をテーマにミニフォーラムを行った。その場に市の担当者にも参加していただき、そのミニフォーラムが契機となって「ワーキングマザーの会」をつくることになった。

○保育園に関して考えると、いろいろ改善できそうなところがあった。例えば、当時は、ふとんを金曜日に家に持って帰り、月曜日にまた保育園に持っていき決まりがあった。また、おかずは保育園で提供されるがごはんだけは家から持っていかないとけないことになっていた。そうした決まりに対して、布団は保育園が用意すればいいし、ごはんも保育園で炊けばいいのでは、といったことを伝えた。

○しかし、大和市の小学校の学童時間を長くするのはそう簡単なことではない。そこで、東京や埼玉などを含め、大和市と同じような規模の自治体はどうなっているのか、全部調べてみた。そして、ワーキングマザーの会で調べたことを当時の市長に提案という形で手渡したところ、保育環境がかなり改善された。

○続いて「つきみ野のけやき並木を考える会」についての紹介。つきみ野には 69 本のけやき並木があるのだが、けやきの根が盛り上がって歩道の安全が確保されないことや落ち葉の問題があり、大和市の計画でこの並木をすべて切ってしまうことが提案された。しかし、地元の人からは、このけやき並木は自分の原風景であるから切ってもらいたくないという声もあがっていた。そこでミニフォーラムを開き、市の担当者も含めて地元の人たちと話を持った。9,000 世帯にアンケートを行った結果、多くの中学生や高校生も答えてくれて、8 割くらいは残してほしいという意見が集まった。なるべく残せるものは残していこうという要望を出したところ、計画が変更になり、点検しながら残せるけやきは残していくという計画内容になった。

○それから、緑野小の近くの宇都宮記念公園のお話。国会議員だった宇都宮さんが市に寄付した緑地に関して、子どもたちのあそび場にしていこうと市民参加でつくっていた。市民参加ではあるが、その場に小学生はいないので、実際に遊ぶ子どもたちの声を聞かずに公園にしてしまうのはどうかという考えがあった。そこで地域のおまつりのときに、どのような公園にしたらよいか 110 名ほどの小学生と保護者にアンケートをした。緑が残るピオトープにほしいという意見が思ったよりも多かった。子どもたちは体を動かすアスレチックがあればいいという意見が多かったと大人は思っていたが、そうではないことがわかった。子どもに関することは子どもに直接聞くことが大事で、わたしたちの国(日本)では、子どもたちの声、当事者の声を聞くことができていない。

こうなったらいいなをかたちにする

- 現在運営しているさくらの森保育園を事例にして「こうなったらいいなをかたちにする」について紹介する。流れとしては、まずは、わたしが「こうなったらいいな」と思うことを、他の人にもわかるように書いてみる。そうすると、たくさんの人にみせることができるし、自分の考えを整理することもできる。書いたものを他の人に見せると「それいいね」「それ前からやりたかった」と思っている人が集まってくる。人が集まると「こういうアイデアがある」「こういう人をたずねたらいいんじゃない」といった話で盛り上がる。そして、最初にわたしが考えた「こうなったらいいな」の形がまとまっていく。次に、集まった人たちで多くの人に知らせる試みが始まる。10人以上集まると準備会をつくることができる。その準備会で、みんなで計画を立てて、お金を集めて形にしていく。シンプルに言うところだけ。
- 保育園について「こうなったらいいな」と思ったのは 2008年6月のことで、最初に 5人が集まり、保育園づくりが始まった。保育園づくりは大和市の計画に関わる話なので、市の計画がどうなっているのか話を聞きに行ったりした。また、みんなが考えている保育園はどのようなものか、そのモデルとなる保育園の見学に行く予定を立てた。見学会は楽しいものなので、他の人も参加できるように企画した。この見学会に12名が参加し、その他にも関心を持っている人がいたので、「子育て支援準備プロジェクト」をつくったところ、参加者が16人に増えた。
- 2009年7月には大和市が保育園を公募することがわかった。そこで物件探しやお金集めなど申込みの準備を進め、同時に NPO の立ち上げや親子のひろばの企画を並行して行った。2009年10月に NPO 法人を立ち上げ、親子のスペース「わにわに」をはじめた。
- 2010年7月に大和市が保育園を公募したが、その内容は60人規模の保育園で場所、設計図、園長さんを含めた保育園運営をすべて決めて、2週間以内に提出しなければいけないものだった。たった2週間で準備できるものではなかったが、応募できないのはとても悔しいと思い、相模大塚の土地探しに走り、設計図は知り合いに一晩で書いてもらった。しかも、運営する NPO 法人は5年間の実績が必要だったので、市外の NPO 法人の協力を得て申込みをした。選考の結果、見事に選ばれ、建設資金やスタッフ集め、保育内容の検討を進めた。6か月の準備期間を経て 2011年3月に開園することができた。
- 子どもたちは近くにある泉の森でたづぶり体を動かしたり、借りている畑で落花生掘りをしたりしている。食事は一番の要に考えていて、安全な食材を選び、家で食べるよ

うな^{しょくじ}食事を提供^{ていきやう}するようにしている。2008年^{ねん}から2年半^{ねんはん}かかって、「こうなったらいいな」と考えた^{かんが}保育園^{ほいくえん}をつくる^{ほいくえん}ことができた。その後^ご、兄弟^{きょうだい}が保育園^{ほいくえん}に入れない、という課題^かも出てきたため、2016年^{ねん}には兄弟^{きょうだい}が入れるように0～2歳児^{さいじ}が対象^{たいしょう}の小規模^{しょうきぼ}保育^{ほいく}を行う^{おこな}保育園^{ほいくえん}を開園^{かいえん}した。

講師^{こうし}より、(1)何か^{なに}変^{へん}だな、こうなったらいいな、と思う^{おも}ことはありますか、(2)それを形^{かたち}にしていくために何を^{なに}しますか、という設問^{せつもん}に対して参加者^{さんかしゃ}同士^{どうし}で話し合^{はな}って見^あないかと提案^{ていあん}があった。

意見交換^{いけんこうかん}の前^{まえ}に

○委員^い：その前^{まえ}に話^{はなし}をしたいことがある。今日^{きょう}のお話^{はなし}は率直^{そつちよく}にすごいなと思う。ただ、話^{はなし}のための話^{はなし}としてはいいが、この会議^{かいぎ}と必ず^{かなら}しもリンクしているわけではないと思う。この多文化^{たぶんか}共生^{きやうせい}会議^{かいぎ}では「こうなったらいいな」と思う課題^{かだい}について、どうやって解決^{かいけつ}していくかを話^{はな}し合^あっている。気が^き付^ついたらすぐやる点^{てん}など、市役所^{しやくしょ}に顔^{かお}が利^きくといったところも含^{ふく}めて市議会^{しぎかい}議員^{ぎいん}の経験^{けいけん}などもアドバンテージになったのではないだろうか。例えば、この場で「こうしたい」という意見^{いけん}があがっても今後の会議^{こんご}で取り上げ^かてもらえるのか、疑問^{ぎもん}が残^{のこ}る。この会議^{かいぎ}でもう少し具体的^{すこ}な方向性^{かたうせ}が見えてきた段階^{たんだい}で、今日^{きょう}のよう^うなアドバイス^{ほうこうりつ}を受けた方が効率^きいいような気が^きするが、どうだろうか。

○講師^{こうし}：わたしは、みなさんの力^{ちから}で市議^{しぎ}をやらせてもらったのだから、それをお返^{かえ}しするつもりで今^{いま}まで活動^{かつどう}してきた。わたしのような人^{ひと}が知り合^しい^あにいたら、自分^{じぶん}たちの活動^{かつどう}に協力^{きやうりよく}してもらえるように使^{つか}えばいい。今日^{きょう}わたし^{はな}が話^{はなし}したことは、この会議^{かいぎ}の内容^{ないよう}とそんな^{はな}にか離^おれたものではないと思^{おも}っている。多文化^{たぶんか}共生^{きやうせい}会議^{かいぎ}では、これまでの話し合^{はな}いで「こうなればいいな」という話^{はなし}が出てきていると思^{おも}う。今日^{きょう}、みなさんでその話^{はなし}をすることで次^{つぎ}につなが^おっていくものと思^{おも}う。

○委員^い：多文化^{たぶんか}共生^{きやうせい}会議^{かいぎ}で過去^{かこ}に行^{おこな}った提言^{ていげん}の結果^{けつ}、その通り^{とお}になっていない(提言^{ていげん}したように改善^{かいぜん}されていない)こともある。どうやったらいいのか、(課題^{かだい}解決^{かいけつ}の方法^{ほうほう})わからないからなのかもしれない。今日^{きょう}のお話^{はなし}を聞^きいて、おかしいなと思^{おも}ってすぐに行^{こう}動^{どう}に移^{うつ}せることはすごいことだと思^{おも}う。でも、それをみんながすぐにできるかといえ、できるものではない。ある程度^{ていど}の方向^{ほうこう}が見^みえた段階^{たんだい}でアドバイス^{だんかい}をいただけたらいいのではないか。

○委員^い：市議^{しぎ}の経験^{けいけん}があつてステップアップしていったように、何か^{なに}やりたいと思^{おも}った時^{とき}、今日^{きょう}思^{おも}い^あつて、明日^{あした}すぐにできるものではない。この多文化^{たぶんか}共生^{きやうせい}会議^{かいぎ}を考^{かんが}えてみても、一つ^{ひとつ}ずつ積^つみ上げていくものなのだと思^{おも}った。わたし^{わたし}たちも伊地知^{いちぢ}さんたちの取り

組みを見習って、何かおかしいなと思う事に対して、明日すぐにできないかもしれないけれど、一生懸命やることは大切だなと思った。

- 事務局：確かに会議の方向性が固まってから、今日のような「何をするか」話し合ってみる時間をとった方が効率のいい進め方なのかもしれない。しかし、これまでの会議では、行政にどのような提言をすればいいのか、提言中心の話し合いになってしまっていた。提言に代わる手法を考えてみる必要があるのではないだろうか。地域の課題解決に向けて、わたしたちは自分たちでどのような取り組みができるのか、みなさんといっしょに考えていきたい。

2 意見交換

あらためて参加者同士で話をしてみることを開始。(1)何か変だな、こうなったらいいな、と思うことはありますか、(2)それを形にしていくために何をしますか、という設問に対して、2人または数人で話し合った。

その後、それぞれが話し合った内容を発表し、講師を交えて意見交換を行った。

- 外国人で話し合うといった場合にいつも同じメンバーしかいないのは変だなという意見があった。

- 資料の翻訳をすることは大事だけれども、翻訳した資料を外国人に見せて意見を聞いてみることも大事ではないだろうか。そうした(コミュニケーションの)プロセスが大事。確かに翻訳するのはたいへんだと思うが、翻訳するだけというのは何か変だなという意見があった。

- 外国人を取り巻く問題は多過ぎるので、何から始めたらいいのかわからない。できるところからやればいいのだが、何ができて、何ができないのか、よくわからない。また、続けることが大事なのだけれども、続けていく中で成果が出ないのもよくない。目標をどうやって設定するか、かたちにするためのプロセスがよくわからない。

会社で日本語を学ぶ

- 横浜にある会社では、仕事が終わった後、火曜日と木曜日の週2回、一時間ほど日本語を勉強する場を設けている。そのおかげで N3の日本語検定に合格した人もある。

- 日本語教室は市内にいくつもあるが、外国人の自立につながっていないのは変だなと思う。日本語教室があるのに日本語を学んでいる外国人が少ない。わざわざ日本語教室に行くのではなく、平日、仕事が終わった後に職場で日本語を学べるプロジェクトがあればいいなと考えている。終業後に日本語教室を開いている会社もあるので、

- そういう会社（かいしゃ）がもっと増えれば（ふ）いいな（おも）と思う。その会社（かいしゃ）は3年（ねん）くらい前（まえ）から実施（じっし）している
 ようで、わたしたちのグループから何（なん）らかの働（はたら）きかけができればいいのではないか。
- 市内（しんない）で日本語（にほんご）教室（きょうしつ）をやっているが、わたしたちも会社（かいしゃ）に出向（でむ）いて日本語（にほんご）教室（きょうしつ）をやりたい（おも）と思っている。市内（しんない）で受け入れてくれる会社（かいしゃ）があればいい。ただ、わたしたちはN3
 などのテスト（めざ）を目指（めざ）しているのではなく、生活（せいかつ）に役立（やくだ）つ日本語（にほんご）を学（まな）ぶ教室（きょうしつ）なので、もし
 かしたら会社（かいしゃ）の要望（ようぼう）とは少（すこ）し違（ちが）うのかもしれない。そのマッ（ま）チング（ちんぐ）ができれば、会社（かいしゃ）の
 要望（ようぼう）に（こた）えられる日本語（にほんご）教室（きょうしつ）はある（あ）るのではない（ない）か。
- 日本語（にほんご）のボラン（きょうし）ティア（し）教師（きょうし）がたくさん（おほ）いるのにも（お）もったいない（ない）。やり（ひ）たい人（ひと）が（う）いるのに受（う）
 け入れ先（さき）がない（ない）のは（お）おかし（お）いと思（おも）っている。
- 仕事（しごと）が終（お）わった後（あと）に日本語（にほんご）教室（きょうしつ）を開（ひら）いている横（よこ）浜（はま）の会社（かいしゃ）が実（じっ）際（さい）にある（あ）る。制（せい）度（ど）がある
 のか、この会社（かいしゃ）が特（とく）べつ（べつ）にや（や）っているのか、どう（どう）いう仕（し）組（く）み（み）で開（ひら）催（さい）しているのか知（し）ること
 が（ま）ず必（ひつ）要（よう）な（な）こと（こと）か（か）も（も）し（し）れ（れ）な（な）い。
- ある（あ）る方（かた）は、わ（わ）か（か）ら（ら）な（な）い（い）こ（こ）と（と）が（が）あ（あ）る（る）と（と）通（つう）訳（やく）窓（まど）ぐ（ぐ）ち（ち）を（を）利（り）用（よう）して（して）いた（いた）が、日（に）本（ほん）語（ご）教（きょう）室（しつ）に（に）通（か）い（か）い
 始（は）めて（めて）から（から）は（は）通（つう）訳（やく）窓（まど）ぐ（ぐ）ち（ち）を（を）利（り）用（よう）し（し）な（な）く（く）な（な）った（た）。頑（がん）張（ば）って（って）自（じ）立（りつ）で（で）て（て）い（い）る（る）人（ひと）も（も）い（い）る（る）。

日本語（にほんご）を学（まな）ぶこ（こ）の（の）で（で）き（き）る（る）場（ば）づ（づ）くり

- そ（そ）も（も）そ（そ）も（も）市（し）内（ない）で（で）外（がい）国（こく）人（じん）の（の）雇（こ）用（よう）が（が）多（おほ）い（い）企（き）業（ぎょう）は（は）ど（ど）れ（れ）く（く）ら（ら）い（い）あ（あ）る（る）の（の）だ（だ）ら（ら）う（う）か（か）。
- 何（なん）ら（ら）か（か）の（の）方（かた）法（ぽう）で（で）調（しら）べ（べ）な（な）い（い）と（と）わ（わ）か（か）ら（ら）な（な）い（い）。外（がい）国（こく）人（じん）に（に）そ（そ）れ（れ）ぞ（ぞ）れ（れ）聞（き）い（い）て（て）み（み）る（る）な（な）ど（ど）し（し）て（て）も（も）い（い）い（い）
 か（か）も（も）し（し）れ（れ）な（な）い（い）。
- （外（がい）国（こく）人（じん）社（しゃ）員（いん）の（の）日（に）本（ほん）語（ご）力（りき）が（が）不（ふ）足（そく）している（い）た（た）め（め）に（に）会（かい）社（しゃ）側（がわ）が（が）困（こま）っ（つ）て（て）い（い）た（た）り（り）、ボ（ボ）ラ（ラ）ン（ン）ティア（ア）
 で（で）日（に）本（ほん）語（ご）を（を）教（おし）え（え）に（に）来（き）て（て）く（く）れ（れ）た（た）ら（ら）い（い）な（な）と（と）思（おも）っ（つ）て（て）い（い）る（る）会（かい）社（しゃ）が（が）あ（あ）る（る）か（か）も（も）し（し）れ（れ）な（な）い（い）。そ（そ）こ（こ）が（が）
 ま（ま）く（く）マ（マ）ッ（チ）ン（グ）（グ）で（で）き（き）れ（れ）ば（ば）い（い）い（い）の（の）で（で）な（な）い（い）か（か）。
- ある（あ）る日（ひ）、生（しょう）涯（がい）学（がく）習（じゅう）セ（セ）ン（ン）ター（ター）に（に）行（い）っ（つ）たら（ら）、会（かい）社（しゃ）が（が）法（ぽう）的（てき）な（な）手（て）続（つづ）き（き）の（の）や（や）り（り）方（かた）を（を）外（がい）国（こく）人（じん）社（しゃ）員（いん）
 に（に）教（おし）え（え）る（る）セ（セ）ミ（ミ）ナ（ナ）ー（ナー）を（を）開（ひら）いて（いて）いた（いた）。会（かい）社（しゃ）が（が）こ（こ）ん（ん）な（な）こ（こ）と（と）も（も）や（や）っ（つ）て（て）い（い）る（る）の（の）か（か）と（と）思（おも）っ（つ）た（た）。
- 運（うん）営（えい）し（し）て（て）い（い）る（る）保（ほ）育（いく）園（えん）に（に）も（も）外（がい）国（こく）人（じん）の（の）保（ほ）護（ご）者（しや）が（が）何（なん）組（く）か（か）い（い）る（る）。保（ほ）育（いく）園（えん）か（か）ら（ら）子（こ）の（の）こ（こ）の（の）こ（こ）と（と）を（を）伝（つた）
 え（え）よ（よ）う（う）と（と）し（し）て（て）も（も）、お（お）互（たが）い（い）に（に）な（な）か（か）な（な）か（か）伝（つた）わ（わ）ら（ら）な（な）い（い）状（じょう）態（たい）。保（ほ）護（ご）者（しや）が（が）職（しょく）場（ば）で（で）日（に）本（ほん）語（ご）が（が）学（まな）べ（べ）る（る）
 よ（よ）う（う）に（に）な（な）れ（れ）ば（ば）い（い）い（い）と（と）い（い）う（う）こ（こ）と（と）は（は）よ（よ）く（く）わ（わ）か（か）る（る）の（の）で（で）、形（かたち）に（に）な（な）ると（と）い（い）い（い）な（な）と（と）思（おも）う（う）。
- 仕（し）事（ごと）を（を）し（し）て（て）い（い）る（る）母（はは）親（おや）が（が）、延（えん）長（ちやう）保（ほ）育（いく）を（を）お（お）願（ねが）い（い）し（し）て（て）仕（し）事（ごと）を（を）し（し）な（な）が（が）ら（ら）日（に）本（ほん）語（ご）が（が）学（まな）べ（べ）る（る）よ（よ）う（う）に
 な（な）れ（れ）ば（ば）い（い）い（い）。
- 言（げん）語（ご）を（を）学（がく）習（じゅう）す（す）る（る）こ（こ）と（と）が（が）仕（し）事（ごと）の（の）一（いっ）環（かん）に（に）な（な）る（る）の（の）で（で）あ（あ）れ（れ）ば（ば）、延（えん）長（ちやう）保（ほ）育（いく）も（も）大（だい）丈（じやう）夫（ぶ）だ（だ）ら（ら）う（う）。
- そ（そ）れ（れ）か（か）ら（ら）、日（に）本（ほん）語（ご）教（きょう）室（しつ）に（に）保（ほ）育（いく）が（が）つ（つ）け（け）ら（ら）れ（れ）た（た）ら（ら）い（い）。仕（し）事（ごと）は（は）し（し）て（て）い（い）ない（い）け（け）れ（れ）ど（ど）も（も）、子（こ）ども（も）
 が（が）小（ちい）さい（さい）た（た）め（め）に（に）日（に）本（ほん）語（ご）教（きょう）室（しつ）で（で）学（まな）ぶ（ぶ）こ（こ）と（と）が（が）で（で）き（き）な（な）い（い）人（ひと）も（も）い（い）る（る）。
- 保（ほ）育（いく）の（の）場（ば）所（じょ）が（が）あ（あ）れ（れ）ば（ば）出（しゅ）張（ちやう）な（な）ど（ど）の（の）形（かたち）で（で）日（に）本（ほん）語（ご）教（きょう）室（しつ）が（が）で（で）き（き）る（る）の（の）だ（だ）ら（ら）う（う）か（か）？

- 日本語教師はボランティア(無償)だが、保育にお金がかかるようだと言っている。はむずかしい。保護者が負担してくれるならいい。教室と保育の場所のほか、お金の問題がクリアできればできるかもしれない。
- ちょうど運営している保育園の隣の部屋を借りてフリースペースを作ったのだが、そこでやるのはどうだろうか？
- 日本語教室のメンバーと会社などに出向いてやりたいね、という話はしている。おそらく、他の日本語教室でもやってくれる方はいるのではないかな。
- 何かそういうプロジェクトができるといいのでは。

「場」をつくる

- 日本人とコミュニケーションが上手にとれる定住外国人がもっと増えるといいなと思っている。それをかたちにするための第一歩として、実態を知ることが大事なのではと考えた。
- 外国人のママたちはしゃべりたいけれども日本語ができなかったり、話し相手がいなかったりしてさびしいときもあると感じていた。そこで2年ほど前から外国人のママたちの集まりを持っている。現在は30人ほどのメンバーがいて、いろいろな国の人が参加している。外国人という問題があるイメージを持たれているけれども、外国人が自分から行動を起こしていけばいいのだと思う。日本(語)のことを学んで日本(の生活)に慣れてくればいいと考えている。日本人のメンバーが参加してくれれば、日本語を学ぶこともできる。例えば、(他人の)家に入るとき、何とさえいけばいいのかわからない。「邪魔します」という言葉を知らなかったりする。そうした点から、やはり(集まりには)日本人も必要。日本人のメンバーは今5~6人いる。小さい子どもを持つ母親が多い。月1回だが、予防接種のことを話したり、料理教室を開いたりしている。みんな仲間になり、公園にも行く。みんな(普段は)電車に乗らないので、イオンや福祉センターなど、場所はどこがいいのかいつも考えている。国際化協会もサポートしてくれる。今月はハロウィンパーティーの予定。
- やはり、どこの国の人であろうと親子で集まるような「場」が必要。なぜかという、みんないろいろな話をしたいから。実家のお母さんに子どものことを話したいけれども、遠くにいる現実はどここの国の人でも同じ。だから、日常的なことを話すことのできる「場」が必要。企んで何かしよう、というものではないと思う。人と人が出会い、それぞれが思っていることを発信することによって形になっていく。

モデルとなる取り組み

- ここまでの話で、大和市で暮らす外国人市民の方が、なかなか日本語がうまくならないという点は共通のことと思う。そこに課題があるし、でも何とかしようとしている人もいる。まだうまく機能していないところがある。さきほど紹介のあった横浜で終業後に職場で行う日本語教室はモデル取り組みと言える。大和市でも、どこか1か所でいいのでそうしたモデルになる取り組みができるといい。今はどこもお金がないのでむずかしいところもあるが、補助金をもらえればそれはそれでいいとして、お金が出なくてもやっていいと申し出てくれる会社はあるのではないだろうか。一つできれば、そこがモデルになって広がっていくことができる。今日の話がかたちになっていけばと思う。
- 大きな日本語教室では70名以上の学習者がいるので、場所を確保するのにいつも苦労している。安定して開催できる場所を確保できるといい。ボランティア教師が授業よりも場所のことに力を入れざるを得なくなる。それができないのは変だなと思っている。70名も集まる日本語教室はそれだけのニーズがあるということで、これからも活動してほしい。市長や市役所の方に働きかけて安定して開催できる場所の確保をお願いしたい。日本語教室のネットワーク会議でもそういう話をしているが、なかなか難しい。
- 70名も集まると日本語学校のような。私を知っている限りでは、お金を払ってもいいから日本語学校に通いたいという外国人がいるのだが、大和にはそういう学校がないので、横浜まで行かないといけないので困っているようだ。
- 国際化協会でもそうした現状を把握しているのだと思う。そうした日本語教室の場所を確保するのは、行政で準備してあげてもよさそうなものだ。
- 場所の確保がたいへんな状況であることはネットワーク会議でも話している。まずは、市役所の担当課に日本語教室の見学にきてもらい、現状をみてもらえるようにネットワーク会議の中で話をしたところ。

目の前の課題を解決する

- 多文化共生っていいねと思う人が増えればいいな、といったことを話した。外国人と日本人の意識調査のようなものをすればいいのかもしれない。
- 現実的な話として、いろいろな言語のアンケートをつくる必要があるのかもしれない。日本人でもいろいろな調査、アンケートの返信率は3割程度。また、アンケートを集めたとしても、結果を分析できるのかどうか。きちんとしたニーズ把握はできるのか、はっきりとしたニーズをつかめるのかどうか。
- アンケートはとても重要なのだと思う。ただ、他の国は多言語で調査していないのでは

ないだろうか。その国の母語(日本語)と英語とかで十分だと思ふ。

○やさしい日本語(かんたんな日本語)はどうか。すべてを多言語で翻訳する必要はないのではないだろうか。

○外国人へのアンケートは、在日本ラオス協会とか、教会とか、日本語教室などで行えば回収率がいいのではないだろうか。やさしい日本語であれば、お互いに助け合いながら回答できると思ふ。

○外国人に対する出身地域別の意識調査そのものがないため、通訳員が聞き取った内容などの情報からニーズを吸い上げていくしかない現状になっている。国際化協会と接触がないところの情報はくみ取れていないのかもしれない。

○今出ている課題ですら解決できていない現状があるので、まずはそこから解決していけばいいのではないだろうか。目の前の課題からかけ離れた課題を持ち出す人は少ないと思ふ。最近わたしたちのグループでは、5歳までの子育て中の母親に対してアンケートを行ったが、人のつながりで集めてきたり、子ども～るに置いてもらったりしてアンケートを回収した。やりたいことがあって、その裏付けのためにアンケートをとったらいと思ふが、ここにいる外国人以外の人々がまったく異なる意見を考へていることはないのではないだろうか。今ここにいる外国人から聞くことがやはり肝心。この多文化共生会議や国際化協会のボランティアに登録している人は、広くまちづくりに参加しようとしている人たちなので、その人たちは大和に暮らす外国人市民の代弁者として意見を言っていると考へていいのだと思ふ。余力があれば他の人に聞いてみてもいいかもしれないが、労力をかけてまで得るものは少ないのではないだろうか。目の前の課題を解決することが、やがて大きな課題の解決につながっていくものだと思ふ。

○いま1時間くらい話し合っただけでも解決につながるモデルになるような話も出てきておもしろかった。それを誰がやるか。ここは国際化協会の呼びかけで集まってきているので、サポートしていくのは国際化協会なのだと思ふ。わたしたちがやるのだけれども、この場を設定してくれた国際化協会にも関わってほしいと思ふ。ぜひ、次につながるように、かたちになるようにつなげていってほしい。

3 その他

次回の会議は11月12日(土)14:00～、同じ市役所分庁舎2階会議室で行う。

いじょう
以上